

JICA食と農の協働プラットフォーム（JiPFA）  
第4回アフリカ農業分科会

<AFICAT進捗報告>

2023年1月25日

（株）かいはつマネジメント・コンサルティング  
池ヶ谷二美子

(1) AFICAT事業の概要（参考）

(2) AFICAT事業の進捗

(3) 今後の予定

# (1) AFICAT事業の概要 (参考) 背景／JICA調査の概要

2019年8月

TICAD7  
官民ビジネス対話

農業機械化を含む先進農業技術の普及に向けて、日・アフリカの官民連携による「日・アフリカ農業イノベーションセンター (Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology : AFICAT)」が提案された。



2020年4月～  
2022年2月

アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査

サブサハラアフリカ4カ国（タンザニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア）で現地調査を実施。調査チームからAFICATの実施体制、活動内容が提案された。



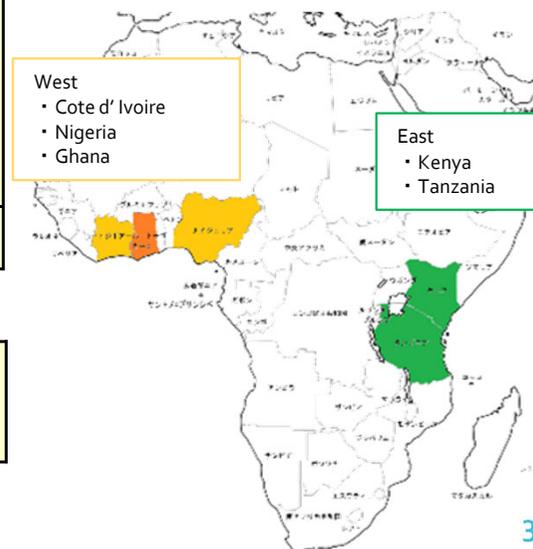
Source: The JICA Survey Team

Now we are here!

2022年2月～  
2024年2月  
(約2年間)

アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化振興にかかる情報収集・確認調査

パイロット活動としてAFICATをサブサハラアフリカ5カ国（タンザニア、ケニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア）で稼働。パイロット活動を通じて得られた知見を基に、中長期的なAFICATの役割、活動計画を提案。



2022年8月  
27 & 28日

TICAD8

2024年2月

中長期的なAFICATの役割・活動計画のとりまとめ

### ■ 案件名

アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化振興にかかる  
情報収集・確認調査

### ■ 契約期間（うち現地活動期間）

2022年2月から2024年2月（2022年3月から2023年11月末頃まで）

### ■ 調査の目的

パイロット活動としてAFICATをサブサハラアフリカ5カ国（タンザニア、ケニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア）で稼働。パイロット活動を通じて得られた知見を基に、中長期的なAFICATの役割、活動計画を提案。



### ■ 調査対象国

タンザニア、ケニア、  
ガーナ、コートジボワール、ナイジェリア（5カ国）  
※ケニアは2022年9月に調査開始

### ■ 対象製品

主に稲作に関する本邦農業機械



# (1) AFICAT事業の概要 (参考)

## AFICATの基本的なコンセプトと機能

「日・アフリカ農業イノベーションセンター」

(AFICAT : Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology)

※AFICATは日・アフリカ官民連携によって運営される。

※既存の施設・組織に機能を付加する。

※本調査はコメ関連農機を中心に調査するが、AFICATは農業資材や、コメ以外の農産物も幅広くカバーする。

SSAにおける農業生産性向上（農業機械化を含む）、農産物の品質向上、農民のエンパワメント

### 本邦企業のSSA進出の足掛かり

パイロット事業では、主に、①広域アドバイス、②展示、実証、デモンストレーション、③ビジネスモデル/バリューチェーンの実証、⑥広報、⑦人材育成（一部）に注力する。

• 農業・農業機械化政策、農機のメンテナンスなどにかかる幅広い人材を育成（代理店の育成も含む）

• 実証試験やデモの結果などを広く外部に発信（含、オンライン）  
• SSA市場に関する情報発信

• 本邦企業や本邦研究機関による研究開発の場の提供  
• 新技術適用可能性のほか、既存製品の現地適合性、現地製造可能性も検証

#### ①広域アドバイス

- 政策アドバイス・実証促進
- 本邦企業のビジネス進出促進
- 農業機械化に関する情報提供、技術的なアドバイス

#### ⑦人材育成（一部）



#### ②展示、実証、デモンストレーション

- 本邦企業の製品の展示
- 中核となる施設での小規模（1~2ha）な圃場での実証やデモ



#### AFICAT

#### ③ビジネスモデル/バリューチェーンの実証

- ビジネスモデル/バリューチェーンの検証
- 大規模な圃場（例：10ha）での実証やデモ
- 精米設備などを地元企業に貸出し
- トータルコストの試算



#### ⑥広報



#### ⑤イノベーション・ラボ



#### ④金融



- 農業資機材購入に関する金融サービスの情報収集・共有
- 現地金融機関と連携（デモ実施）
- ツーステップローン/海外投融資など金融スキームの形成促進

# (1) AFICAT事業の概要 (参考) AFICAT運営に係る費用負担 (基本方針)

		AFICAT設置国 政府／民間セクター	日本政府／JICA	本邦企業／ 現地代理店
1	土地、建物	◎	○ 建物のリハビリ、センター および周辺の圃場整備	-
2	人員	◎	△	○ 企業から技術者などの 派遣
3	農業機械	- 既存の農機を借用する 可能性はあり	△	◎ 展示、実証、デモ用の 本邦企業の製品（製品の持 ち込み費用、消耗品、スペ アパーツ代などを含む）
4	農業資材	-	△	◎ 展示、実証、デモ用の 本邦企業の製品
5	運営費（燃料代、施設 の維持管理費など）	- （通常業務に係る経費のみ 現地負担）	△	◎ 実証、デモの実施に必要な 経費（燃料費、消耗品、ス ペアパーツ代などを含む）

※販売促進に関する活動は、基本的には本邦企業／現地代理店が担う。

◎: 主に負担

○: 一部負担

△: AFICATが全面的に稼働するまでなど、一定期間負担



## (2) AFICAT事業の進捗 国内（個別協議、JiPFA、有識者会合）

### ①本邦企業との個別協議

### ②JiPFA開催

- 2022年3月16日開催：キックオフ
- 2022年8月10日開催：進捗報告、有識者によるタンザニア視察
- 2023年1月25日開催：進捗報告、ケニア

### ③有識者会合

- 目的：本調査／AFICATの概要を説明し、有識者の皆さまから助言をいただく。
- 有識者

	所属先／役職	氏名
1	(株) 新農林社代表取締役社長	岸田義典氏
2	(一社) 日本農業機械工業会 (日農工) 専務理事	田村敏彦氏
3	(一社) 日本農業機械化協会 専務理事	藤盛隆志氏
4	新潟大学自然科学系教授／元農業食料工学会農機部会長	長谷川英夫氏
5	(独) 国際協力機構 国際協力専門員	大石常夫氏

- 開催実績（会場：JICA本部（対面）／オンライン会議（Teams）
  - 第1回：2022年5月6日（水）15:30～16:50
  - 第2回：2023年1月16日（月）15:00～16:30

## (2) AFICAT事業の進捗 国内（個別協議、JiPFA、有識者会合）

### ④有識者／メディアによるタンザニア視察

#### <タンザニア視察の目的>

本邦メディア／本邦関係者を招へいし、タンザニアの実情を把握していただき、セミナーや業界紙などを通じて情報を発信いただく。そのような活動を通じ、本邦企業のSSA 進出（AFICAT活用）への関心が高まり、農家のニーズに合った製品や技術が現地に導入されることで、相手国への貢献するを期待。

#### <日程>

7月30日（土）～8月7日（日）

#### <参加者>

##### a) 本調査の有識者



	所属先／役職	氏名
1	(株) 新農林社 代表取締役社長	岸田義典氏
2	(一社) 日本農業機械工業会 (日農工) 専務理事	田村敏彦氏
3	(一社) 日本農業機械化協会 専務理事	藤盛隆志氏
4	(独) 国際協力機構 国際協力専門員	大石常夫氏

##### b) メディア関係者

	所属先／役職	氏名
1	(株) 農経新報社 取締役・編集局長	遠藤和美氏
2	(株) 国際農業社 報道部部長	佐藤博文氏

#### <結果報告>

結果は、2022年8月10日開催のJiPFAで報告

## (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

- 1) AFICATの設置を予定していた5カ国すべてでAFICAT稼働に向けて合意することができた。
  - TICAD8までに先行調査で現地調査を実施した4カ国でAFICATを稼働させるというチャレンジな目標を、JICA本部／JICA現地事務所の支援を受け、達成することができた。
  - 先行調査で現地調査受け入れを拒否していたケニアも、JICA本部／JICA現地事務所、農業機械化アドバイザー、北部回廊アドバイザーらの多大なる協力もあり、密に情報を交換することで、農業機械化担当次官にも受け入れてもらえることができた。
  - 5カ国とも、AFICAT稼働に関する合意文書に署名締結することができた。

## (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

2) 各国におけるパイロット活動は順次実施中（以下、AFICATニュースレターより）。  
＜タンザニア＞



- 本田技研工業(株)様の現地視察、デモの実施を支援
- 製品の性能テストを現地関係者と共に実施
- JICA Facebookに掲載（[2022年4月6日](#)、[2022年5月11日](#)）
- (株)ケット科学研究所様の製品を用いたセミナーを実施
- 農業省キリマンジャロ研修センター（KATC）で農業省関係者向け
- 農業省本省で農業省職員、現地業界団体、基準局向け
- JICA Facebookに掲載（[2022年5月16日](#)、[2022年6月2日](#)）
- 農業祭（ナネナネ）に出展し、現地政府職員と本邦製品・技術を紹介
- (株)サタケ製品が導入される精米工場を視察
- 本邦企業の現地視察をアレンジ
- 現地情報の提供ほか



※パイロット活動に関する詳細はAFICATニュースレターを参照（バックナンバーは以下から参照可能です）

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

# (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

## 2) 各国におけるパイロット活動は順次実施中（以下、AFICATニュースレターより）。 ＜ナイジェリア＞



JETRO  
日本経済振興機構(JETRO) 海外ビジネス展開 サポートサービス | 国・地域別に見る | 目的別に見る | 産業別に見る

ビジネス短信

日本政府が主導し農業機械化を促進するAFICAT、初回セミナーを開催  
(ナイジェリア)

2022年06月14日

日本政府が主導する日・アフリカ農業イノベーションセンター（AFICAT）は、6月1日から2日まで、ナイジェリア・ナサラワ州ロワイヤで小規模農家向け初回セミナーを開催した。ナイジェリア側からは、ナサラワ州農業事務局（ADP）、連邦農業農村開発省（FMARD）、国立農業機械化センター（NCAM）、ナサラワ州農業省、同州の5農業グループ（各グループ入らず、計15人）が参加した。

2019年の第7回アフリカ開発会議（TICAD7）にて、日・アフリカの両国連携により農業生産性や農産物の品質向上に貢献するため、アフリカセサズ農産物産学ワーキンググループがサブハラ・アフリカ各地にAFICATを投資する連携を定めた。対農家の技術的支援の導入や農業機械化を促進するため、本邦企業のアフリカ進出を支援し、農産物産学への導入・人材育成、イノベーションの促進となることを目指す。2022年2月から2024年2月までの2年間は、国際協力機構（JICA）のパイロット事業としてナイジェリアを含むサブハラ・アフリカ5国間で実施する。

初回セミナーでは本田技研工業の小型耕うん機と動力農機（ふんむき）の使用方法和メンテナンス方法に關し、セミナーと実機でのデモンストラーションを通じて小規模農家に紹介した。ナサラワ州農業省のメディア・イブラヒム

JICA Nigeria  
6月3日 3:20

<#AFICAT調査チームが#NCAMを訪問>

#AFICAT 調査チームは、近代化農業技術導入による農業 #機械化の推進を目的としたデータ収集調査を実施しています。調査チームは、2022年5月に#クワラ州にある国立農業 #機械化センター(#NCAM)を訪問し、施設と農業機械の状況を確認しました。

調査チームとのミーティングの中で、NCAMは農業#機械化を推進し、ナイジェリアでの#AFICATの設立を支援することにコミットメントを表明しました。... もっと見る

元のテキストを表示 - この組織の評価



KETT ELECTRIC LABORATORY Co. Ltd. <https://www.kett.co.jp/>

1-4-1. Product

1) For agricultural & food processing use

Gain moisture tester (GMT)

Rice whiteness tester

NIR grain composition analyzer

Grain appearance analyzer

Other equipment

- 本田技研工業様様の現地視察、デモの実施を支援
- Nasarawa Broadcasting Serviceでは6月1日、2日のホンダのデモの様子が放映（現地政府予算）  
<http://www.kmcinc.co.jp/news/2876/>
- JETROビジネス短信  
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/06/c9d0f3b36198a4db.html>
- JICA Facebookに掲載（2022年6月3日）

- (株)ケット科学研究所様の製品を用いたセミナーを実施
  - 2022年6月21日（実機なし）
  - 2022年10月21日（実機あり）
- 本邦企業の現地視察をアレンジ
- 現地情報の提供・情報交換ほか

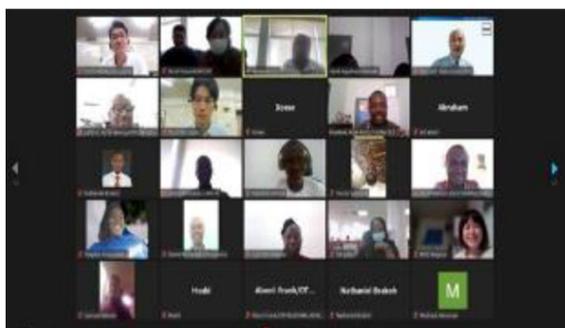


※パイロット活動に関する詳細はAFICATニュースレターを参照（バックナンバーは以下から参照可能です）

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

# (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

2) 各国におけるパイロット活動は順次実施中（以下、AFICATニュースレターより）。  
 <ガーナ>



- (株)ケツト科学研究所様の製品を用いたセミナーを実施



- (株)荏原製作所様の現地視察を支援、主要関係者と協議に同行
- JETROビジネス短信にインタビューが掲載  
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/10/63a1c187a1d23c2f.html>



- 農業祭（全国農民の日）を視察、現地で得られた情報を本邦関係者に共有
- 現地情報の提供
- 本邦企業が有する製品導入の可能性を協議
- 現地で開催される学会の情報を共有
- JICA技術協力プロジェクトのご紹介ほか



※パイロット活動に関する詳細はAFICATニュースレターを参照（バックナンバーは以下から参照可能です）

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

## (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

2) 各国におけるパイロット活動は順次実施中（以下、AFICATニュースレターより）。  
＜コートジボワール＞



- (株)ケット科学研究所様の製品を用いたセミナーを実施
- 現地の主要農作物の現状を取材、ニュースレターなどで情報発信



- JICA技術協力プロジェクトの活動、そこで活用される本邦製品を取材、広報
- コートジボワールでビジネス展開されている本邦製品に関する情報を収集、ユーザーに取材、広報



- 現地情報の提供・情報交換

※パイロット活動に関する詳細はAFICATニュースレターを参照（バックナンバーは以下から参照可能です）

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

# (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

## 2) 各国におけるパイロット活動は順次実施中。

### <広報>



- JiPFA（3回目開催）
- AFICATニュースレター
  - 日本向け：1～7号
  - タンザニア、ナイジェリア、コートジボワール、ガーナ：1号
- JICA現地事務所などのFacebookで掲載
- 現地メディア
  - タンザニア（新聞）
  - ナイジェリア（ラジオ、TV）
- 農村ニュース（タンザニア、ケニア（掲載予定））
- 農経しんぼう（タンザニア、ケニア）
- 食料農業工学会年次総会 オーガナイズドセッション（2022年9月14日開催）
- 国際農業機械化研究会（2022年10月26日）
- 開発協力白書（2022年度コラム掲載予定）

※パイロット活動に関する詳細はAFICATニュースレターを参照（バックナンバーは以下から参照可能です）

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

## (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

### 2) 各国におけるパイロット活動は順次実施

（教訓、課題も徐々に明らかになってきている）。

- オンラインセミナー、実機を使ったデモンストレーション、農機の性能試験など、本邦企業が希望する活動を実施するには、まだまだ日本人の関与が必要。
- 上記の活動に現地政府機関を巻き込みながら実施しているが、準備、調整に時間がかかる。特に実機を用いたデモンストレーションやセミナーを実施する際には、事前に現地政府関係者や本邦企業と稼働確認や進め方を調整する必要がある。
- 現地視察をアレンジする際、JICA技プロ関係者に協力いただくと効率的なことが多い（ただし、どこまで負担をお願いできるか要調整）。

## (2) AFICAT事業の進捗 パイロット活動（活動進捗と現状分析）

3) 本邦企業が現地視察、デモンストレーションなどを実施する際、必ずしもAFICATの専門家の現地渡航日程に合致するわけではない。

- 遠隔でのフォローアップとなり、現地活動期間以外にも業務が発生する。タイミングよくフォローできず、効率が悪い／支援の質が悪くなる。

4) 現地政府機関のAFICATへのかかわり方も様々である。

- ガーナはCP機関は大変協力的でAFICATの活動に三者一緒に協議することが多い。各国で更なる現地関係者の巻き込み、AFICATへの理解醸成が必要。

5) 今後、活動の見える化、そして本格実施のための方策を検討するが、やっと動き出したAFICATの動きを更に加速させたい。AFICATを活用する本邦企業の数／支援の質を増やしたい。

## 3) 今後の計画 ① 全体方針（案）

### 今後の活動方針（案）

- ・ 本調査の目的は、本邦メーカーのSSA進出の足掛かりとなり、現地／現地政府にとってメリットがある、AFICATの持続的な実施体制、具体的な活動案を提案し、AFICATの役割を整理することである。
- ・ そのための施策として、以下を今後の活動方針の柱としたい。
  - ① 販促を意識した企業支援（質の向上）、
  - ② AFICATを活用する本邦企業の数増加（量の向上）、
  - ③ AFICAT／アフリカ進出への理解・関心の拡大（本邦関係者／現地関係者）
  - ④ AFICATの理想形を具現化（みえる化）
  - ⑤ 長期的なAFICAT実施体制を意識した活動



## 3) 今後の計画 ③ 本邦招へい

### <実施案> (調整中)

#### 1) 目的

- AFICATに関わるアフリカ各国の政府関係者らが、本邦企業、本邦製品に対する知識・理解を高め、AFICATが先進農業技術の導入促進、農業機械化に貢献することを認識する。
- 本邦企業／本邦関係者に、アフリカ各国／AFICATの情報を提供し、アフリカ進出やAFICATの活用に関心を高めていただく。
- 持続的なAFICATの実施体制の検討、JICA筑波共創ハブとの連携や具体的な取り組みについて、主要関係者（各国政府関係者、JICA本部、JICA筑波ら）と協議し、関係者内で一定の方向性を見出す。

#### 2) 実施時期

- 2023年5月22日（月）頃から約1 - 2週間を想定

#### 3) 本邦招へい対象者

- 現地政府職員（農業開発／機械化関係部局長レベル、或いはAFICATのFocal Person）と、現地政府が推薦／容認する現地商工会議所や民間業界団体（あれば）。
- AFICAT対象5カ国（タンザニア、ケニア、ガーナ、コートジボワール、ナイジェリア）、各国1 - 2名。合計最大10名程度。

#### 4) 主な訪問先

- 主要本邦農機メーカー、農業機械に関する業界団体、圃場、JICA本部、JICA筑波、AFICAT調査有識者ほか

# 3) 今後の計画 ④ AFICATの理想形を具現化

## 1) タンザニアでKATC／ローアモシ灌漑地区を中心にデモ圃場／展示スペースの設置

- ・ KATC／ローアモシ灌漑地区の圃場で本邦製品を活用し、均平された圃場、適期収穫などを紹介

## 2) 展示スペース

- ・ KATCの施設の一画を活用し、本邦製品のチラシ、動画、ポスター、バナーなどを展示



# ご清聴ありがとうございました。

AFICATのご活用を希望する本邦企業を募集中です。

AFICAT、アフリカ進出に関心がある方は、お気軽にご連絡ください。

(株) かいはずマネジメント・コンサルティング

tel: 03-5791-5083

弓削田 高大 : [yugeta.kodai@kmcinc.co.jp](mailto:yugeta.kodai@kmcinc.co.jp)

狩野 未樹子 : [kano.mikiko@kmcinc.co.jp](mailto:kano.mikiko@kmcinc.co.jp)

池ヶ谷二美子 : [ikegaya.fumiko@kmcinc.co.jp](mailto:ikegaya.fumiko@kmcinc.co.jp)

JICAのHP

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>